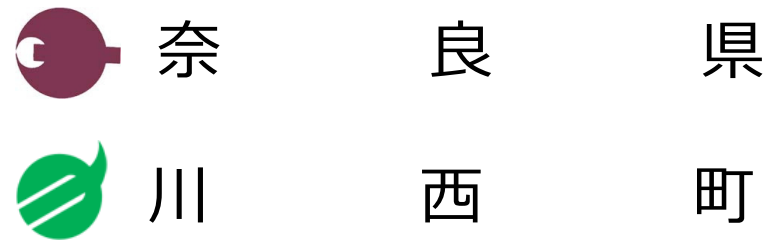


川西町 近鉄結崎駅周辺地区 まちづくり基本計画

平成30年12月



目 次

1．基本計画策定の背景と目的	1
2．まちづくり基本計画の位置づけ	1
3．まちづくり協定作成の流れ	1
4．計画推進のための組織体制	1
5．計画の対象エリア	2
6．基本構想のコンセプトと基本方針	2
7．まちづくり構想図（基本構想時）	3
8．基本計画で定める取組み内容	4
9．基本計画の事業メニュー・事業スケジュールと実施箇所	5
10．基本計画の目標に対する事業効果（K P I）	9

1. 基本計画策定の背景と目的

川西町は、大和盆地のほぼ中央に位置し、大和川・寺川・飛鳥川・曽我川の4河川が流れる水辺の町である。

古くは万葉の時代、南朝と北朝を結ぶ交通の要衝として栄えた。大正時代に橿原神宮への参拝客を運ぶ大阪電気軌道（現 近畿日本鉄道）が開業すると、大阪・京都へ1時間という立地の良さから昭和40年代以降は住宅団地・工業団地が開発され人口が増加し、結崎駅周辺は町の玄関口として、また町の顔としてにぎわいを見せていた。

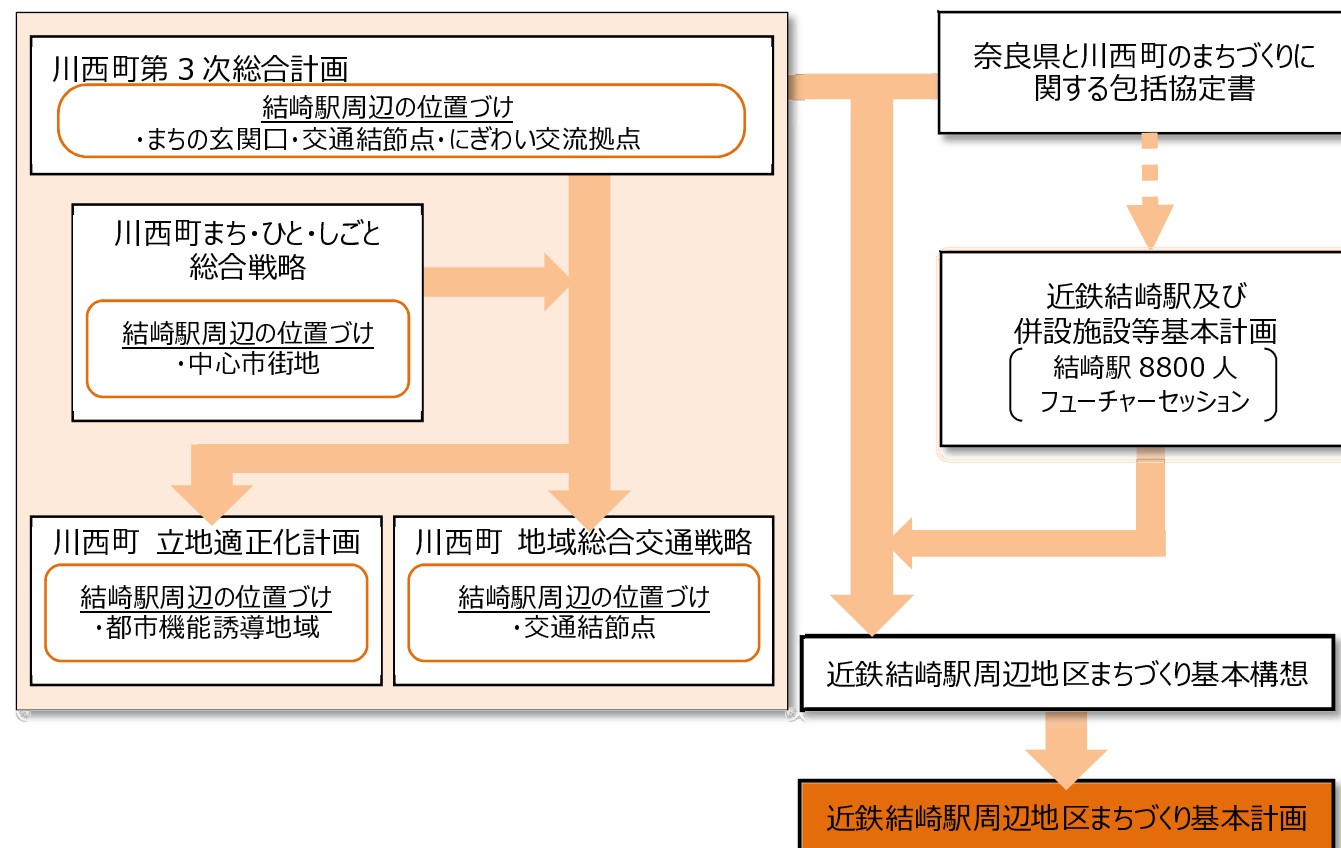
しかし、日本の高度成長とともに人口増加を続けた川西町も1995年をピークに人口は減少に転じ、時代の変化とともに結崎駅周辺のにぎわいは過去のものとなってしまった。

そのため、奈良県と川西町は平成28年8月に「まちづくりに関する包括協定」を結び、県・町が連携・協力して結崎駅及び駅周辺地区の拠点機能を再整備し、「川西町らしい 駅・まちづくり」の実現化を図ることを目的として、平成29年12月に「近鉄結崎駅周辺地区まちづくり基本構想」を策定した。

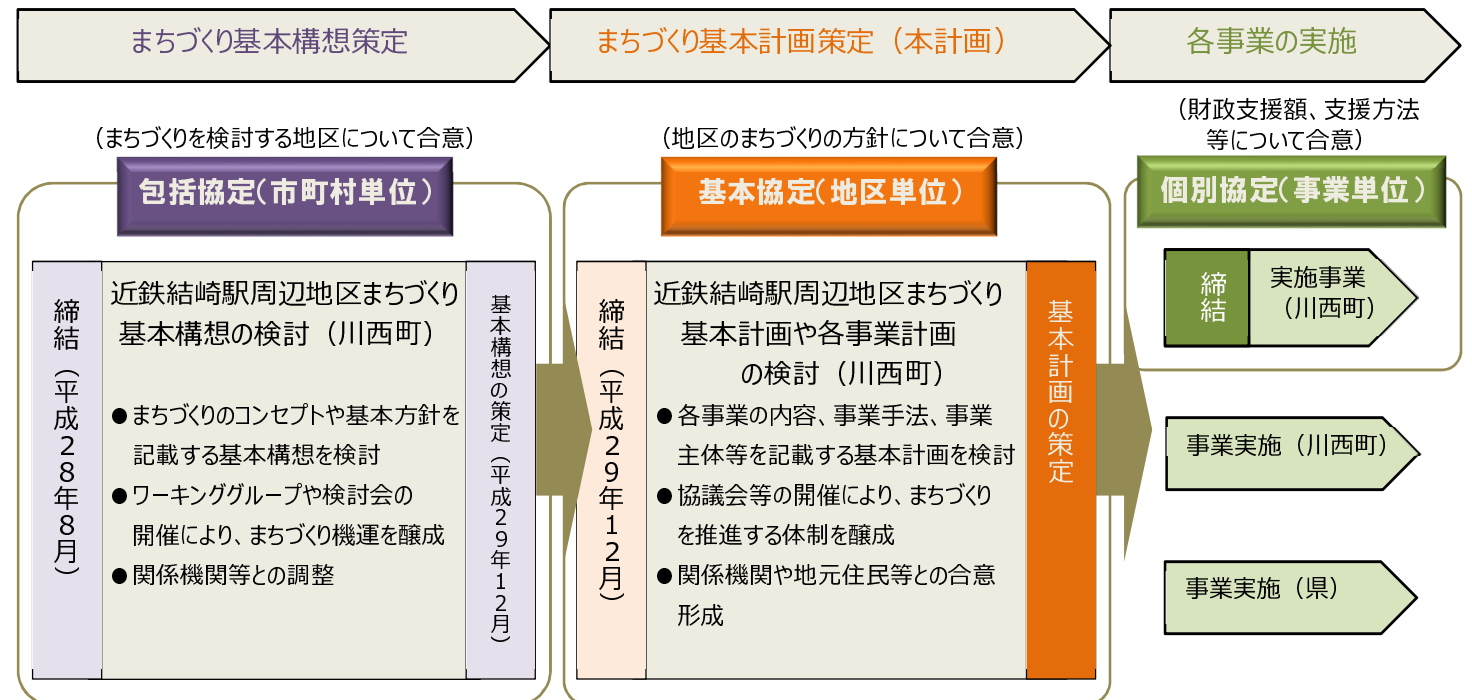
本計画は、「近鉄結崎駅周辺地区まちづくり基本構想」の実現に向け、地域住民・民間事業者・行政が協働で結崎駅及び駅周辺地区において実施すべき事業等について検討し、「近鉄結崎駅周辺地区まちづくり基本計画」として策定したものである。

2. まちづくり基本計画の位置づけ

本計画は、上位計画である「川西町第3次総合計画」や「川西町まち・ひと・しごと総合戦略」「川西町立地適正化計画」「川西町地域総合交通戦略」に即した計画であるとともに、「近鉄結崎駅 8800人フューチャーセッション」により出された「近鉄結崎駅及び併設施設等基本計画」の内容を反映した「近鉄結崎駅周辺地区まちづくり基本構想」を具体化するための計画として位置づけられる。

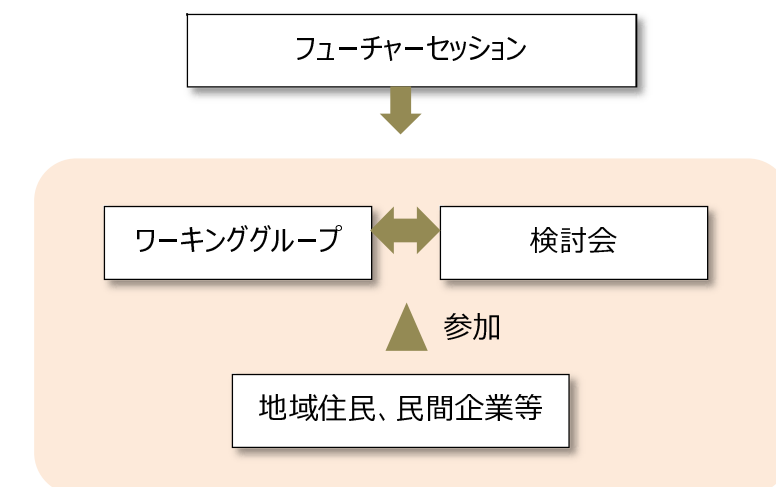


3. まちづくり協定作成の流れ



4. 計画推進のための組織体制

近鉄結崎駅周辺地区まちづくり基本計画にあたっては、基本構想策定時に引き続き、ワーキンググループと検討会の連携により策定を行う。これまでフューチャーセッション等により地域住民等の意見を計画づくりに反映させてきたが、計画推進にあたっては住民意見を汲み取りながら行う。また、事業実施段階での組織体制は、今後検討していく。

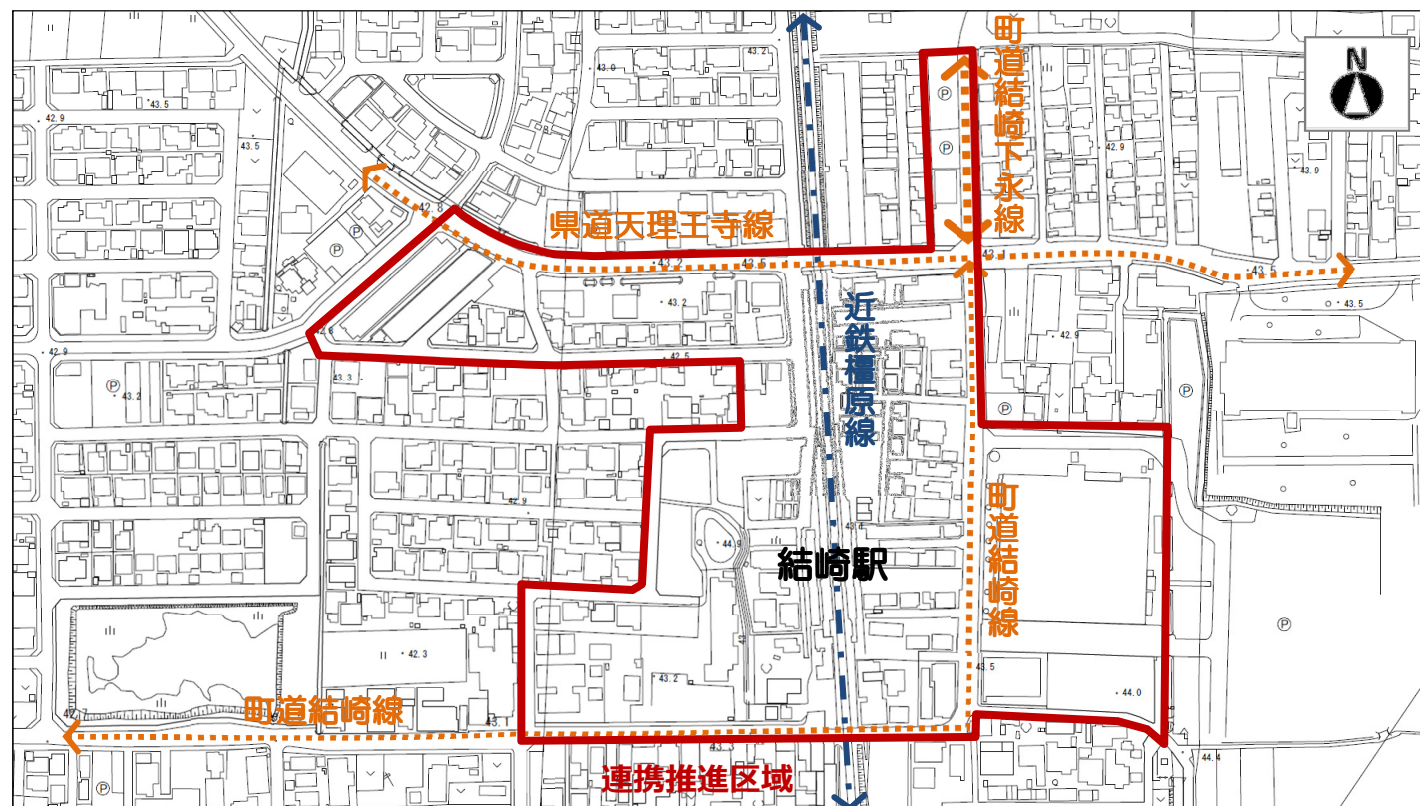


5. 計画の対象エリア

【町域及び検討エリア】



【計画対象エリア（連携推進区域）】



6. 基本構想のコンセプトと基本方針

基本構想コンセプト

結崎駅を舞台に、みんなが主役の“座”をつくる

「座」＝場所・人の集まり・同じ思い

3つの基本方針

基本方針
1

集まる

結崎駅ならではの“にぎわい拠点”づくり

子育て世代を中心に、多世代の人が気軽に使えて、思い思いに過ごせる場所を作ります。町中から人・モノ・情報が集まり、まるで公園のような笑顔あふれる町の顔となるにぎわいの拠点を提供します。新しい公共の在り方として、民間の力を引き出す組織づくりを行います。

基本方針
2

つながる

顔が見えるコミュニケーションで人と人、人とまちを結びつける

「小さい町」という特徴を活かして、お互いに顔がわかるようなキメ細やかなつながる仕組みを構築します。
つながることで交流がはじまり、町中に人の輪が広がります。
人と人がつながり、町のイイトコロが町中に広まるネットワークをつくれます。

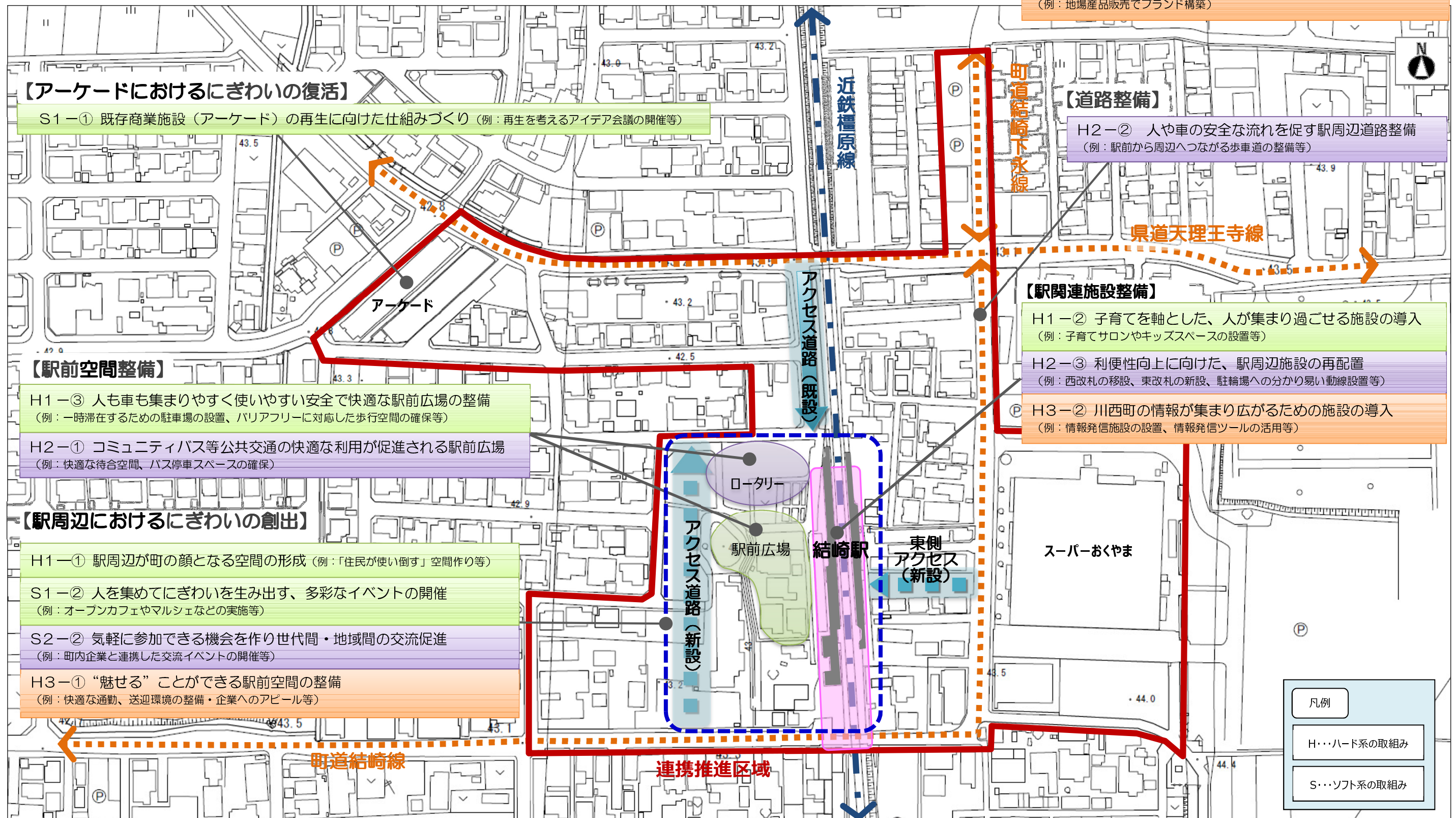
基本方針
3

発信する

「楽しさ」と「未来志向」をキーワードにまちの魅力を発信する

既存コンテンツを有効活用しつつ、「未来志向」の新たな魅力の創出に取組み、町内外へ発信します。
みんなが持っている「楽しさ」を集めて、相乗効果を生み出します。

7. まちづくり構想図（基本構想時）



8. 基本計画で定める取組み内容

近鉄結崎駅周辺地区のまちづくりのコンセプト「結崎駅を舞台に、みんなが主役の“座”をつくる」の実現に向けて、取組み毎に整理した事業について、各事業がどのような役割を果たしているかを意識し、地域住民・民間事業者・行政が協働して戦略的に取り組みます。

取組み1 “座”の基盤をつくる

“座”への導入空間を整備する

取組み 1-1 “座”への導入空間となる道路等のハード整備事業

- ①町道結崎 148 号線 道路整備事業
- ②町道結崎線 道路整備事業
- ③町道結崎下永線 道路整備事業
- ④町道踏切改良事業
- ⑤県道天理王寺線踏切改良事業

“座”の屋台骨格となる基盤を整備する

取組み 1-2 “座”の屋台骨格となる公園や広場のハード整備事業

- ⑥西口公園整備事業
- ⑦東口広場整備事業

段階整備

“座”の舞台装置となる基盤を整備する

取組み 1-3 “座”の舞台装置となる駅舎や施設等のハード整備事業

- ⑧公園施設(休養施設等)整備事業
- ⑨駅舎整備事業
- ⑩駐輪場整備事業

機運醸成・事業連携

取組み2 “座”を企画する

みんなが主役となる“座”を結成する

取組み 2 “座”の運営組織を形成し機運を醸成するソフト事業

- ⑪まちづくり活動促進事業

取組み3 “座”を演出する

“座”の演目を充実させて、ファンを増やす

取組み 3 “座”の賑わいと魅力発信の充実・拡大に向けたソフト事業

- ⑫賑わい創出事業
- ⑬地域の魅力発信事業

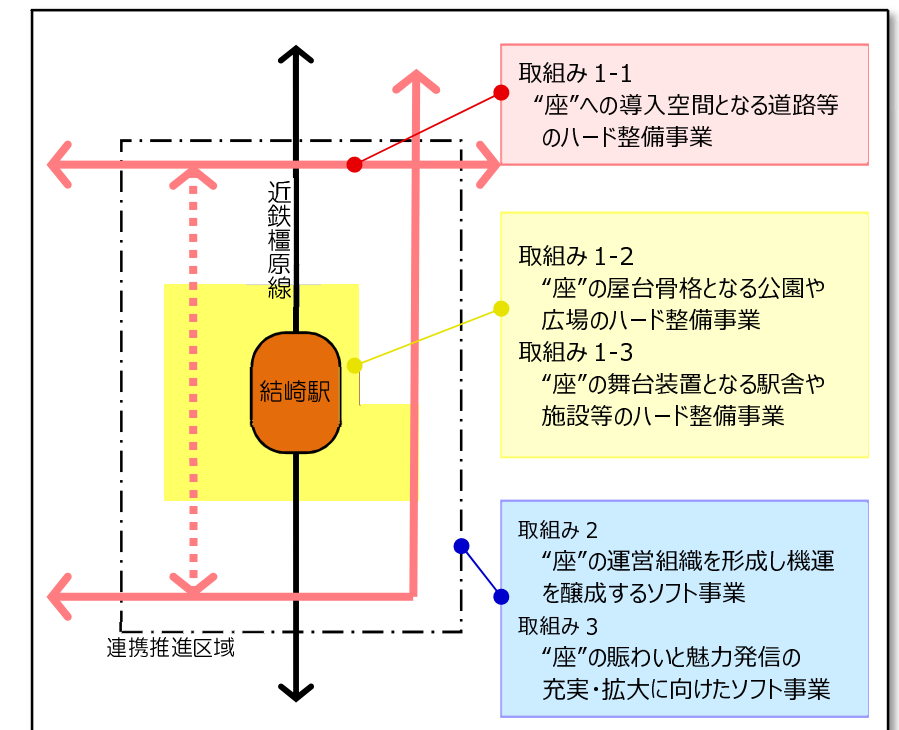
ステップ1 話し合い、企画立案段階

ステップ2 いろいろ試しにやってみる段階

ステップ3 本番開始

基盤施設の供用開始

取組み箇所 概要図



9. 基本計画の事業メニュー・事業スケジュールと実施箇所

●事業メニュー・事業スケジュール

事業関係者との関わり

工事前に実施する項目

整備工事

取組み 1 “座”の基盤をつくる			※本基本計画は、５年以内に完了または着手する具体的な取組みに加え、それ以降の将来的な取組みも含めて策定したものです。（５年経過毎に改訂予定）							
事業種別	事業名称	事業主体	事業内容	事業手法	短期スケジュール【H30（2018年）～H34（2022年）】					中長期スケジュール 【H35（2023年）～】
					H30 （2018年）	H31 （2019年）	H32 （2020年）	H33 （2021年）	H34 （2022年）	
座”への導入空間を整備する										
取組み 1－1 “座”への導入空間となる道路等のハード整備事業										
ハード事業	①町道結崎 148 号線 道路整備事業	町	・町道結崎線や県道天理王寺線から結崎駅へのアクセス道路と、交通広場としての駅前ロータリーを整備する。 ・ベビーカー、高齢者、車椅子等バリアフリーに対応した歩道空間を確保する。 ・ロータリーでは、一般車やコミュニティバス・企業送迎バスの停車スペースを確保し、利便性を高める。	社会資本 道路事業	用地買収 詳細設計	整備工事 【⑥西口公園と同時施工】				
	②町道結崎線 道路整備事業	町	・駅の南側や東側に位置する町道結崎線を整備する。 ・ベビーカー、高齢者、車椅子等バリアフリーに対応した歩行者空間を確保・改善する。 ・県道天理王寺線との交差点に右折レーンを整備する。	社会資本 道路事業	用地買収 詳細設計					
	③町道結崎下永線 道路整備事業	町	・町道結崎下永線を整備する。 ・ベビーカー、高齢者、車椅子等バリアフリーに対応した歩行者空間を確保・改善する。 ・県道天理王寺線との交差点に右折レーンを整備する。	社会資本 道路事業			用地買収 詳細設計			
	④町道踏切改良事業	町・近鉄	・狭小な車道の拡幅を行うとともに歩道を設置し、移動の安全性を向上させる。	社会資本 道路事業	事業関係者 調整		詳細設計			
	⑤県道天理王寺線 踏切改良事業	県・近鉄	・大型車がスムーズに通行できる幅員を確保する。 ・踏切前後の交差点まで含む歩道整備を行い、歩行者の安全性を向上させる。	社会資本 道路事業		用地買収 詳細設計		整備工事 （前後区間）	整備工事 （踏切）	

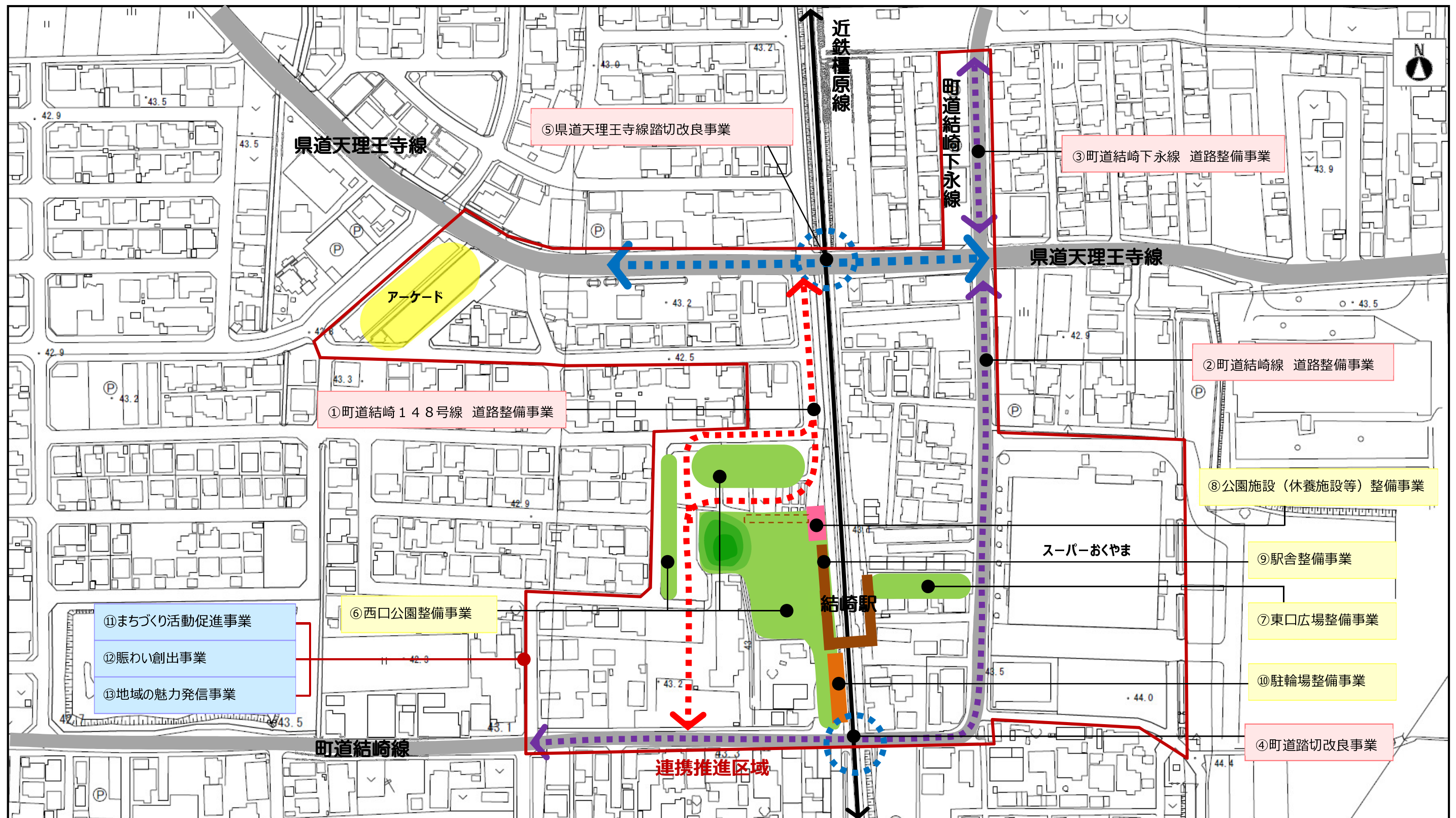
事業種別	事業名称	事業主体	事業内容	事業手法	短期スケジュール【H30（2018年）～H34（2022年）】					中長期スケジュール 【H35（2023年）～】	
					H30 （2018年）	H31 （2019年）	H32 （2020年）	H33 （2021年）	H34 （2022年）		
“座”の屋台骨格となる基盤を整備する 取り組み 1－2 “座”の屋台骨となる公園や広場のハード整備事業											
ハード事業	⑥西口公園整備事業	町 （住民）	・駅西側において、「まちの顔」となる公園をロータリーと一体的に整備する。 ・駅や車窓からの見え方などを工夫した、特色ある景観形成を行う。 ・住民等が多様な交流活動を行える、自由度が高く使い勝手のいい空間形成・施設配置を行う。 ・愛着がわき利用度を上げる公園づくりの一環として、「みんなでつくる」をテーマに、施工段階においても地域住民が関われる取り組み・工夫を積極的に行う。 ・住民と行政との役割分担を踏まえた管理体制を確立する。	社会資本 都市再生	地域住民との意見交換 （活用・管理等）	「みんなでつくる」 取り組み・工夫	基盤施設の 暫定供用開始		基盤施設の 供用開始		
	⑦東口広場整備事業	町	・新設する駅東改札口と町道結崎線を結ぶ東口広場を整備する。 ・住民と行政との役割分担を踏まえた管理体制を確立する。	社会資本 都市再生	用地買収 実施設計	整備工事 【①町道結崎 148 号線と 同時施工】					整備工事
“座”の舞台装置となる基盤を整備する 取り組み 1－3 “座”の舞台装置となる駅舎や施設等のハード整備事業											
ハード事業	⑧公園施設 （休養施設等） 整備事業	町 （住民）	・公園利用者の滞在を促す、居心地の良い空間を整備する。 ・駅前空間を子育て支援・賑わい創出・住民参加等の活動拠点とする。 ・愛着がわき利用度を上げる施設づくりの一環として、「みんなでつくる」をテーマに、施工段階においても地域住民が関われる取り組み・工夫を積極的に行う。 ・住民と行政との役割分担を踏まえた管理体制を確立する。	社会資本 都市再生	地域住民との意見交換 （活用・管理等）	「みんなで つくる」 取り組み ・工夫	西口公園の 基盤工事完了後	西口公園・ 東口広場の 基盤工事 完了後	西口公園の 工事着手前	既存駅舎（西側）の 撤去完了後	
	⑨駅舎整備事業	町・近鉄	・ロータリーや西口公園・東口広場の整備と連携し、駅改札口の移設（西口）・新設（東口）を行う。	社会資本 交通戦略	基本設計 実施設計	整備工事					整備工事
	⑩駐輪場整備事業	近鉄・ 奈良交通	・現在の駐輪場を、西口広場整備に合わせて移設する。		用地買収 物件補償	仮設駐輪場の 設置、営業					整備工事

事業種別	事業名称	事業主体	事業内容	事業手法	短期スケジュール【H30（2018年）～H34（2022年）】					中長期スケジュール 【H35（2023年）～】	
					H30 （2018年）	H31 （2019年）	H32 （2020年）	H33 （2021年）	H34 （2022年）		
みんなが主役となる“座”を結成する 取り組み2 “座”の運営組織を形成し機運を醸成するソフト事業											
ソフト事業	⑪まちづくり活動促進事業	住民 町 事業者	「川西町らしいまちづくり」を推進するため、民官それぞれのまちづくりに対する思い・目指すべき将来像について対話・意識共有する機会を増やし、駅周辺ならびにまち全体のまちづくりに関する企画・運営・維持管理主体の組織化も含め、川西町にふさわしい民官協働体制の構築を行う。		賑わい創出事業・魅力発信事業と連携し、町民活動団体や地域住民と行政の対話・意識共有の機会を積極的に設ける			川西町にふさわしい民官協働体制の検討			
				まちづくり機運醸成 まちづくり人材の発見・発掘、育成							
		アーケードの空き店舗等の利活用の調査・企画や事業者マッチングの仕組みづくりなどを、住民意見を吸い上げながら行う。						アーケードの空き店舗等の利活用に関する住民アイデア会議の開催	物件所有者との交渉 モデル事業の検討、実施、検証		
			空き家等対策に関する施策との連携								
“座”の演目を充実させて、ファンを増やす 取り組み3 “座”の賑わいと魅力発信の充実・拡大に向けたソフト事業											
ソフト事業	⑫賑わい創出事業	住民 町 事業者	町民活動団体等が自主的・主体的に企画・提案・実施する賑わいづくり活動や、地域住民による日常の小さな賑わいづくり活動を促進するため、支援制度の利用促進・拡充、新たな活動発足の促進、民官協力関係の強化、利用者目線に立った公園使用ルールづくりを行う。		町民活動団体や地域住民との意見交換活動しやすい空間形成・施設配置の反映 公園使用ルールの考案			基盤施設の暫定供用開始			
				既存活動の継続・充実や、新規活動の発足に向けた、民官協力関係の強化							
			「住民提案型まちづくり事業補助金」の積極的活用、制度検証								
	町 事業者 （住民）	駅前周辺ならびにまち全体の賑わいを創出するため、子育て支援・多世代交流や町内企業交流などのイベント、さくら祭りや駅前イルミネーションなどの期間限定イベント、駅前オープンカフェや駅前マルシェの社会実験事業などの企画・運営を行う。		事業計画立案、役割分担共有 実施方法検討 開催準備			オープニングイベント開催 人が集まり・つながり、賑わいを創出するための企画を継続的に実施				
		住民 町 事業者	賑わい創出事業と連携し、町の魅力をアピールするイベントや、地場製品のブランド構築戦略、住民や企業参加による植栽修景や維持管理などの企画・運営を行う。		プレイベントの開催			オープニングイベント開催 まちの魅力を発信するための企画を継続的に実施			
	各自が持つ発信ツールをフル活用して、「今できる」「やろうと思えばできる」情報発信を積極的に行う。			川西町のまちづくりの取り組みをアピール				タウンプロモーション「いい町、ちかい町」と連携した魅力発信 SNSの積極的活用			

「川西町らしさ」を活かすためのイベントキーワード

- 基本構想のコンセプトおよび基本方針から見えるキーワード 「にぎわい」「コミュニケーション」「発信」「子ども」「子育て」「ファミリー」
- 川西町の特徴から見えるキーワード 「大和盆地のほぼ中央」「水辺の町」「能」「観阿弥」「古墳」「大王」「結崎ネボカ」「伝統野菜」「食」「貝ボタン」「手作り」「海外」「外国人労働者」「企業」「企業送迎バス」
- 第 3 次総合計画から見えるキーワード 「文化」「芸術」「歴史」「地域資源」「教育」「安心」「子育て」「地域交流」「対話」「魅力発信」

●事業実施箇所



凡例

取組み 1-1 “座”への導入空間となる道路等のハード整備事業

取組み 1-2 “座”への屋台骨格となる公園や広場のハード整備事業

取組み 1-3 “座”への舞台装置となる駅舎や施設等のハード整備事業

取組み 2 “座”の運営組織を形成し機運を醸成するソフト事業

取組み 3 “座”の賑わいと魅力発信の充実・拡大に向けたソフト事業

10. 基本計画の目標に対する事業効果（K P I）

指 標	定 義	従 前 値	目 標 値	備 考
近鉄結崎駅周辺における危険認知度	近鉄結崎駅周辺で運転したり、歩いたりして「危ない、こわい」などと「思う」と回答する割合	39.7%（2012年）	20.0%（2020年）	都市再生整備計画の指標
近鉄結崎駅周辺におけるコミュニティ活動等の運営支援者数	近鉄結崎駅周辺で行われているコミュニティ活動・イベント等を主体的に運営支援する人数	16人（2015年）	40人（2020年）	都市再生整備計画の指標
近鉄結崎駅周辺におけるイベント開催数	近鉄結崎駅周辺で行われているイベントの開催数	1回（2016年）	3回（2020年）	都市再生整備計画の指標
近鉄結崎駅の利用者	日平均の乗降客数	4,053人（2015年）	4,000人（2021年）	第3次総合計画の指標
子育て世代の社会増減	20～39歳の社会増減	29人転出超過 （2010～2014年）	転入超過 （2022年）	
駅周辺の空き店舗	基本計画区域内における空き店舗数	26店舗（2018年）	20店舗（2022年）	